

自立訓練（生活訓練）

個別生活訓練プログラム（SIM）概要

一般社団法人 Pasio

1. プログラムの位置づけ

本プログラムは、自立訓練（生活訓練）において実施する個別生活訓練の一環として、SIM（Social Independence Measure：社会生活の自立度評価指標）をアセスメントおよび振り返りの指標として活用し、利用者一人ひとりの社会生活の維持および社会参加に向けた力の変化を把握・共有することを目的とする。

SIM は評価そのものを目的とするものではなく、日々の生活訓練支援の積み重ねを、客観的に整理・可視化するための補助的手段として位置づけている。

2. 支援の基本的な考え方

- 利用者の生活状況・体調・心理状態・生活環境を踏まえた個別性の高い支援を行う
- SIM で設定されている各項目（健康管理、金銭管理、人間関係等）を、日常の支援場面の中で自然に扱う
- 数値の向上のみを目的とせず、本人の理解・納得・選択を重視した支援を行う
- 支援経過を振り返り、生活上の変化や課題を本人と共有する

3. SIM に対応した主な支援内容（概要）

本プログラムでは、SIM で示される以下の領域を意識しながら、個別生活訓練を実施する。

（1）社会生活を維持するための活動に関する支援

- 体調管理や服薬、生活リズムの確認
- 金銭管理や身の回りの管理に関する整理
- 買い物、家事、調理等の日常生活動作に関する支援
- 生活のセルフマネジメント（無理のない生活調整、休養判断 等）

（2）社会の一員として積極的に参加するための活動に関する支援

- 公共交通機関等を利用した外出に関する支援
- 対人関係の整理や距離感の確認
- 日中活動や地域での余暇活動に関する検討・振り返り
- 就労や社会参加に向けた準備的支援

（3）共通項目（制度・サービス活用）に関する支援

- 福祉制度やサービスに関する情報整理

- 困りごとを相談する力の育成
 - 必要な支援を「自ら選び、つながる」ための支援
-

4. SIM の実施および結果の取り扱い

- SIM は、利用開始後および利用期間中、利用終了前等、適切な時期に実施する
- 採点は、日常の支援記録や訓練場面に基づく十分なアセスメントを前提とする
- 結果は、個人が特定されない形で集計し事業所全体の支援傾向や成果として公開する
- 数値の変化については、支援の質の検証および今後の支援改善に活用する

※実際の結果公開においては、「入所時・直近・卒業時の比較」「項目別平均」等の形で整理している。

5. 期待される効果

- 利用者自身が生活の変化を振り返りやすくなる
- 支援内容と生活上の成果の関係を客観的に説明できる
- 事業所としての支援の方向性・特徴を外部に対して明確に示せる
- 支援の属人化を防ぎ、支援の質の共有・継続性を高める